

近世のたたらマニュアル

『鉄山秘書』（鉄山に関する必要な内容を記録した記事）は、製鉄所の経営者であった下原重仲（1738-1821）が1784年に著した全8巻の書物である。それまで門外不出だった製鉄の技術など、たたら鉄づくりの全てを説明した徹底的なマニュアルだ。

例えば、第4巻（ここに展示）には、たたら炉の作り方や、たたら炉があった高殿（作業場）の解説やスケッチが掲載されている。『鉄山秘書』が書かれた頃には、たたら炉は野外ではなく建物の中に作られるようになっていた。炉が大型になり、製錬が数日に渡っておこなわれるようになると、風雨から炉を守るための作業場が作られた。

このマニュアルは、鉄づくりの技術だけでなく、働く人たちそれぞれの行動ルールも書かれている。たとえば、第6巻には、製鉄所の経営者は飲酒や賭博を慎み、自ら手本を示すべきだと書かれている。また、旅芸人が村に入って労働者の気を散らさないようにするよう忠告している。同じ理由で、高殿の作業場に女性が長居をしないよう、村下（作業長）に注意を促している。